

(2) 東北



東北地域では、景気は持ち直している。

- ・ 鉱工業生産は緩やかに増加している。
- ・ 個人消費はおおむね横ばいとなっている。
- ・ 雇用情勢は依然として厳しい状況だが、緩やかな改善傾向にある。

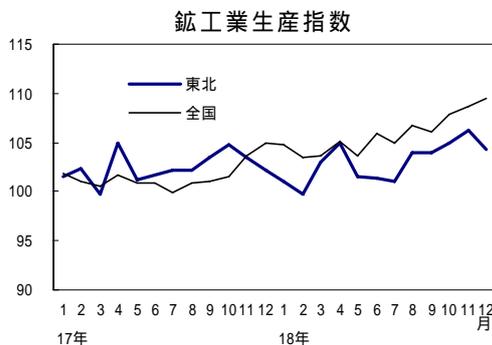
前回調査からの主要変更点

	前回（平成18年11月）	今回（平成19年2月）	
住宅	大幅に増加	増加	

1. 生産及び企業動向

(1) 鉱工業生産は緩やかに増加している。

電子部品・デバイスは、国内の携帯電話やゲーム機向けのアクティブ型液晶素子（中・小型）やサーミスタ・バリスタなどが好調に推移したことから増加している。食料品・たばこは、生菓子やたばこが好調だったことから増加している。情報通信機械は、通信会社の携帯電話基地局向けの無線送信装置、郵便局など金融機関向けの端末装置や携帯電話の国内向けの新製品が出たことから増加している。一般機械は、金型やパルプ・製紙機械などの反動もあったことから減少している。電気機械は、工業用計測機器、自動車のファンやパチンコ台などに使用される小型電動機、時計に使用される酸化銀電池、ゲーム機用のリチウムコイン電池などが好調に推移したことから増加している。



- (備考) 1. 12年=100、季節調整値。
2. 平成18年12月の東北は速報値。

域内主要業種の動向(季節調整値、前期比) (%)

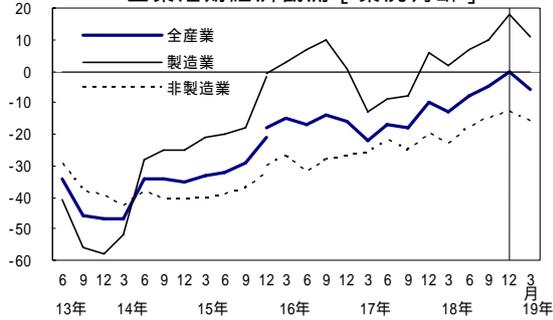
	付加価値 ウェイト	生産		出荷	在庫
		7~9 月期	10~12 月期	10~12 月期	10~12 月期
電子部品・デバイス	19.3	2.8	4.8	5.6	21.9
食料品・たばこ	12.9	2.9	1.5	3.4	15.6
情報通信機械	11.6	6.7	2.4	2.6	13.0
一般機械	8.6	4.5	0.9	0.5	29.4
電気機械	5.8	3.6	2.3	1.9	18.3
鉱工業	100.0	0.4	2.0	2.5	1.6

- (備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い15業種。
2. 10~12月期は速報値。

(2) 企業動向の業況判断は「良い」超幅と「悪い」超幅が同数となっており、資金繰り判断は「苦しい」超幅が縮小している。

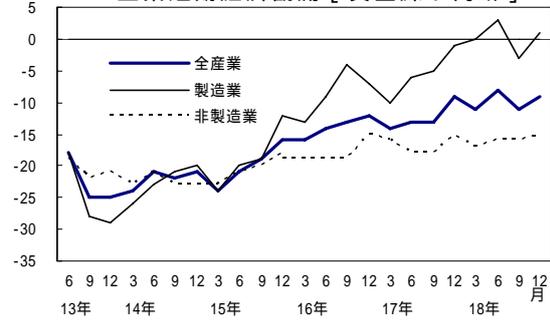
企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査

(%ポイント) 企業短期経済観測 [業況判断]



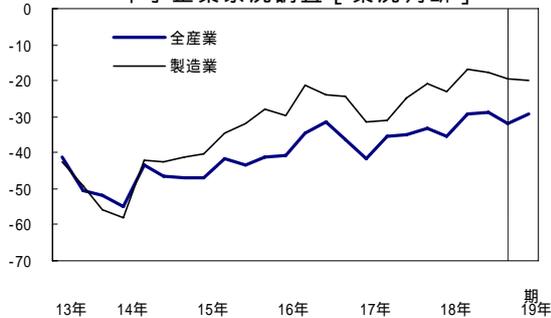
(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。19年3月は予測。
15年12月は新・旧基準を併記。

(%ポイント) 企業短期経済観測 [資金繰り判断]



(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。
15年12月は新・旧基準を併記。

(%) 中小企業景況調査 [業況判断]



(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。19年 期は見通し。

景気ウォッチャー調査(1月)[企業動向関連(現状)]

「暖冬で降雪量が少なく、利幅の多い除雪収入を見込んでいた土木業者やスリップ事故による修理を見込んでいた自動車板金業者は影響を受けている。一方、前年は大雪で観光客が激減した温泉旅館などは業績回復の兆しがある。今が季節のハタハタ漁は総体的に豊漁であった(金融業)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

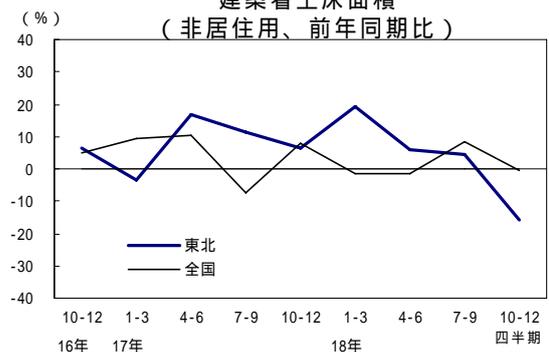
(3) 18年度の設備投資は前年度を大幅に上回る計画となっている。

企業短期経済観測調査 [設備投資(12月調査)]

	(前年度比、%)	
	17年度実績	18年度価
全産業	4.5	28.1(7.5)
製造業	10.3	49.4(13.6)
非製造業	1.7	8.4(0.7)

(備考)()は前回(9月)調査比修正率。

建築着工床面積
(非居住用、前年同期比)



2. 需要の動向

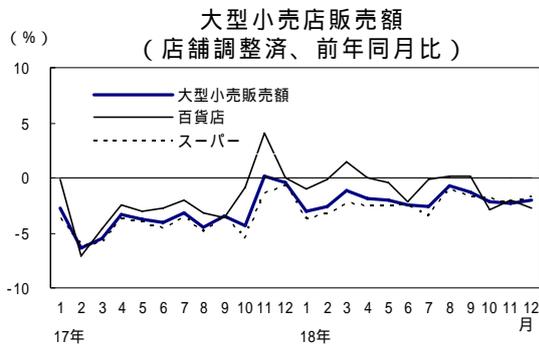
(1) 個人消費はおおむね横ばいとなっている。

大型小売店販売額及びコンビニエンスストア販売額

百貨店は、10月は、紳士服、婦人服ともにコート等の秋冬物衣料が低調に推移し、身の回り品でもアクセサリーなどが低調だったことから前年を下回った。11月は、歳暮ギフトや総菜が前年を上回ったものの、冬物衣料品全般が不調となり、ハンドバッグ等の身の回り品も振るわなかったことから前年を下回った。12月も冬物衣料全般が振るわず、婦人ブーツ等の身の回り品も低調であったことから前年を下回った。なお、東北百貨店協会によると、東北地区の1月の売上高は前年同月比で0.6%減となっている。

スーパーは、野菜や酒などに動きがみられたものの、精肉、鮮魚などが低調に推移し、衣料品も冬物全般が振るわなかったため、前年を下回った。今期の大型小売店販売は、四半期を通じて気温が高めに推移したことが衣料品などにマイナスの影響を与えていると考えられる。景気ウォッチャー調査(1月)[家計動向関連(現状)]

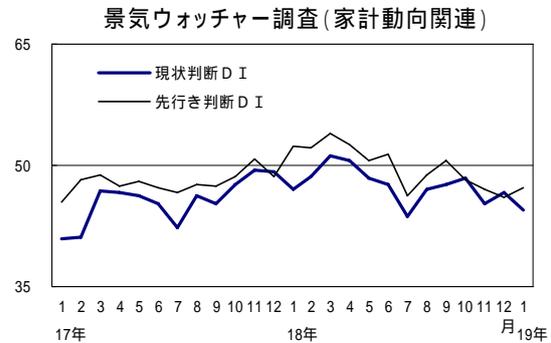
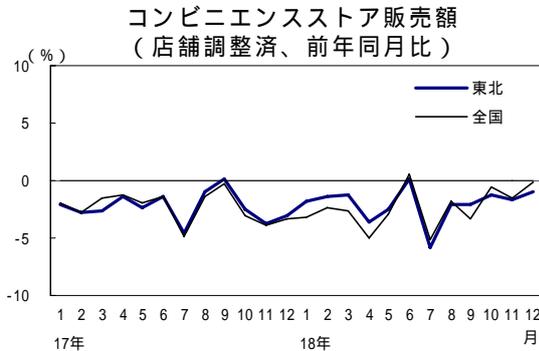
「初売り、クリアランスセール序盤は好調に推移したが、中盤からは暖冬の影響で購買の動きが伸びず、さらには円安の影響で値上げした輸入ブランド物の売上也停滞した。何とか前年実績はクリアできたが、好況感は乏しいと言わざるを得ない(百貨店)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。



	(前年同期比、%)			
	18年1-3月	4-6月	7-9月	10-12月
大型小売店	2.3	2.1	1.5	2.1
百貨店	0.1	0.9	0.0	2.6
スーパー	3.1	2.5	2.1	2.0
コンビニ	1.5	2.0	3.4	1.3
景気ウォッチャー	48.9	48.9	46.1	46.7

(備考) 1. 大型小売店及びコンビニは店舗調整済。

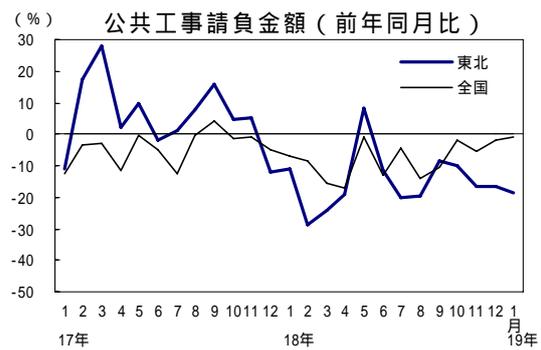
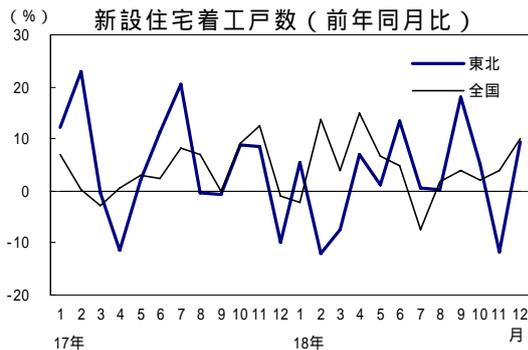
2. 景気ウォッチャーは家計動向関連の現状判断DIの3か月平均。



(2) 住宅建設は増加している。

貸家が前年を下回ったものの、給与などが増加したことから、全体では増加している。

(3) 公共投資は18年度累計で見ると前年度を下回っている。

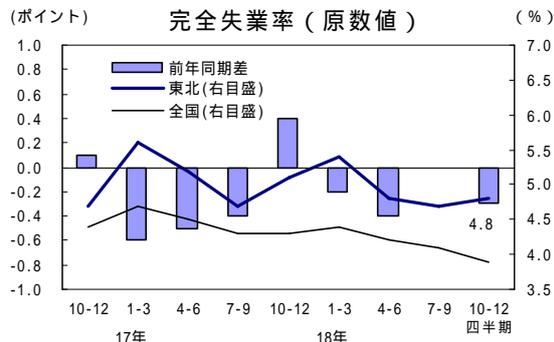
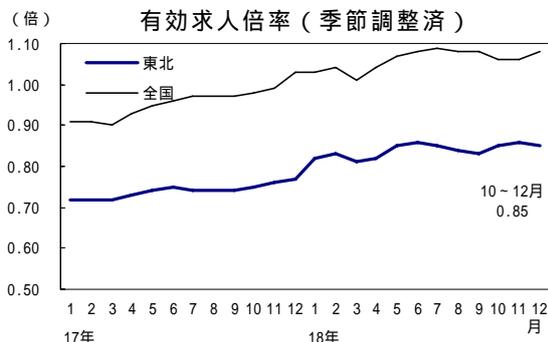


3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は依然として厳しい状況だが、緩やかな改善傾向にある。

有効求人倍率及び完全失業率

有効求人倍率はおおむね横ばいとなっている。完全失業率は前年同期を下回っている。



景気ウォッチャー調査（1月）[雇用関連（現状）]

「ピンポイント採用（技術者等）新卒採用も増加している（求人情報誌制作会社）」など「やや良くなっている」とする回答や「間接雇用から直接雇用に移行しており、求職者の数や質に変化がみられる。残存の求職者の質は低下している（人材派遣会社）」など「変わらない」とする回答が多くみられた。

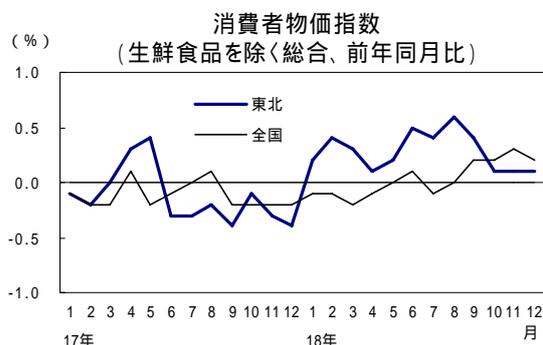
(2) 企業倒産は、件数はおおむね横ばいとなっているものの、負債総額は減少している。

1月に件数が大幅に上昇している。

(3) 消費者物価指数は前年比の上昇幅が縮小している。

企業倒産

	（件、億円、％）				
	18年1-3月	4-6月	7-9月	10-12月	19年1月
倒産件数	225	234	255	224	73
（前年比）	3.8	5.3	2.8	2.8	58.7
負債総額	680	720	810	681	169
（前年比）	18.3	24.7	17.6	7.2	30.9



景気ウォッチャー調査（1月）[合計（特徴的な判断理由）]

<現状>

・忘年会、新年会のシーズンも期待が外れた。特に2次会が少なく、バス、電車の利用を心掛けている様子がうかがえる（タクシー運転手）。

<先行き>

・除雪及び冬季需要関連の仕事が振るわず、その影響で個人消費も振るわない。積雪不足による水不足も今後じわじわと現れ、農作物にも甚大な被害が出る（自動車備品販売店）。

景気ウォッチャー調査（合計）

